令和6年5月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

それではまず私の方から、区の新規の事業などをご説明させていただきます。

まずスポーツの施設に関することをお話させていただきます。

一つ目は、スポーツ施設の一般開放になります。子どもレターを昨年の6月からやっていますけれども、昨年度469通の子どもレターをいただきました。もうそれぞれお返事お出ししていますけども、その中の約4割がスポーツのこととか、遊び場のことでした。もっと身近なところでたくさん運動したりとかですね、もっともっと遊び場を増やしてほしいという声が約4割。また、昨年、区民提案制度というのを初めて始めましたけれども、その中でもスポーツの力で子どもたちを元気にしていきたいっていう提案があって、それを今年度新規の予算に計上をしています。

そうした子どもの声、区民の声とかで、やはりもっともっと子どもたちが走ったり、ボール蹴ったりできるところを何とかできないかなということを考えておりまして、今回、スポーツ施設の開放、施設の利用料無料化に振り切ったところでございます。

こちらでておりますのがまずは一般開放です。4月から既に始めているのが運動場です。総合体育場の野球場と南長崎スポーツセンターの多目的広場を、こちらの曜日と時間で子どもたちが自由に使っていただけるようにしています。結構ですね、もう走り回ったりですね、ボールで遊んだりして、楽しく使ってもらってる様子の報告を聞いております。

夏になると、もうめちゃめちゃ暑くて熱中症の問題がどんどん大きくなっていきますので夏休みの期間はですね、屋外じゃなくて屋内ということで、体育館を開放することにしました。それぞれ豊島・巣鴨・雑司が谷の体育館、南長崎スポーツセンター、それぞれの屋内の場所を、午前中子どもたちに自由に使っていただきたい、周りの方に気をつけたり協力しながらみんなに使っていただきたいということでやってまいりたいと思っています。

そしてもう一つがですね、今度は料金を無料にするというものでございます。

区内7ヶ所、次のページにちょっと細かいんですけども、PRと思いましてつけています。それぞれの施設でメニューが異なります。卓球をやる日、バレーボールをやる日、体操をやる日、またプールやトレーニングルームがあるところもあります。そこについて、今は小・中学生は200円、高校生相当18歳までの子は、これは大人と同じ400円をいただいていましたけれども、やっぱりもっともっと子どもたちにスポーツをしてほしい、体を動かしてほしいということで、区民の子は、いつ何回使っても無料ということを7月1日からスタートをいたします。

夏休みに何とか間に合わせたいということで、5月27日に開催されました区議会の臨時会、この時期にある臨時会っていうのは通常議長さんを決めたり、各委員を決めたりっていう臨時会なんですけれども、そこに今回何とか7月に間に合わせたいということで、この改正条例を上程させていただきまして、可決をいただきました。

この後ですね、細かなカレンダーのような形で、取り急ぎ皆さまにお知らせしたいと思って書きましたけれども、今所管の方で一生懸命わかりやすいカレンダーにしようかなと思っていますけどね、これを今後できるだけ早く、ホームページとかいろんなところで発表していきたいと思っています。小中学校などを通じてですね、子どもたちにも直接カレンダーをお配りしたいし、また幼稚園に行っている子、保育園に行っていること、お兄ちゃんお姉ちゃんが小学生ってこともあるので、そういうちっちゃい子の施設を通じてでも、いろいろPRしていきたいなと思います。

小中まで無料にっていう区はいくつかあるように聞いていますけども、18歳まで無料にするというのが、23区では初めてになります。ここもいろいろ考えましたけども高校生、中学生もそうですけど高校生も、なかなかちっちゃい子以上に遊び場がない、運動する場がないっていうような声もありますので、区としてはやるのであれば、もう高校生相当まで子どもたちは全員無料にしようということでスタートをいたします。ぜひ宣伝していただければと思います。

次はですね、中学生への学習支援を強化するという内容でございます。

これまで豊島区はここにありますとしま地域未来塾っていうのをですね、平成28年

度からやっておりました。中学生の学習習慣を定着させよう、学力の向上を図ろうということで地域と連携して無料の学習サポートをやってまいりました。こちら下にありますように、土曜日やっていたんですね。土曜日の午後三つの場所でやっておりました。昨年度は延べ 455 人が、未来塾に来てくださって、勉強をしてきました。

今回、学習院大学とですね、区は包括協定を結んでいるのですけれども、その一環でご協力を、というお声をいただきまして、学習院大学の学生さんの全面協力で、平日水曜日の夜、学習院大学の大学生が中学生に教える学習支援をしてくれるということになりました。区立中学校に通う約 20 名程度を想定しております。もちろん無料です。

学習院大学のですね、公認団体として社会福祉研究会というのがあるそうで、そこに所属する現役の学生さんがサポートに入ってくれます。

中学生の地域未来塾みたいなことやっている区もこれもまたいくつかありますけれども、大学とここまでガッツリ連携してですね、学生団体が学習支援をしてくれるというのも初めての取り組みになります。

中学生の子からすると、お兄さんお姉さんで年が近い大学生が身近なところで教えてくれる、もしかするとその勉強以外にもいろんな悩み事だとか困ったことなんかも話しやすいという面もあるんじゃないかと思います。また、大学の中でやりますので、これからの進学どうしようかなとかですね、いろんなことも想像しやすくて頑張ろうなんていう気もアップするといいなと思っております。これも学習院大学のボランティアでやってくださるということで、大学との包括連携がうまくいったな、ありがたいなと感謝をしております。

次がですね、不登校対策でいよいよアバターが登場するバーチャル・ラーニング・プラットフォームというのをスタートするというお話でございます。

昨年度、報道でもだいぶされていましたけれども、不登校の子、過去最多全国で約 30 万人ということで、豊島区でも残念ながら増えております。令和 4 年度は 341 人、小学生より中学生の方がかなり多い、そんな状況であります。また、豊島区また後ほど外国人の相談窓口の件で申し上げますけど、外国籍の方がどんどん増えておりま

す。もちろんそれに伴って外国籍の子どもさんも増えているということで、日本語指導が必要な子たちっていうのも増えてくるというような状況があります。

こうしたことを受けまして、これ元々ベースは東京都の事業でございますけれどもそれと連携をして、オンライン上の仮想空間で、そこが新たな居場所とか学びの場として、そこにアバターとして子どもたちが参加する、おうちにいるだけだったのが、場所はおうちかもしれないけど、アバターとしてみんながいるところに参加できる一つのステップにできればいいなと思っています。

まずは今月の 15 日から、雑司が谷の駅に直結している教育センターがあるんですけど、その中に柚子の木教室というですね、学校に行けない子とか、それから日本語を学びたいっていう子がですね、来ております。そこでまず先行して柚子の木教室の子のトライアルを 15 日から始めました。時間をちょっと区切りましてですね、今 5 名ぐらいの子がですね参加してくれているというふうに聞いております。

そこではサポートしてくれる方もアバターで出てくるので、そこでもやり取りもできますし、個別の相談もできますし、右にあるようにいろんなコンテンツがですね、教科書と連携した Web 教材がいっぱいあってですね、私も見ましたけど、それで自分で勉強もできるというようなものになっています。これをまず柚子の木の子でトライアルしたあとは、9 月にはですね、柚子の木に来ていない子、本当におうちにいる子、不登校の子にもアカウントへお渡しして、まずはアバターでここに入ってもらう。そして、その次としては柚子の木に来てもらう。そして学校に行けるようになったら学校にというようなそうしたステップを踏んだ不登校の子への支援を強化していきたいなと思っています。

もう他の区も先行してやっているところがあるのでご覧いただいた方もいらっしゃると思いますけど、私もこれ実際に入ってみましたけど、すごい面白いですね。教室でみんなで一斉に授業も受けられるし、お喋りをみんなでできるとこもあるし、カウンセラーの方と 2 人で、一対一で個別面接する部屋もあって、当然そういうときはシャットアウトされて他の子は聞いたり、音が漏れたりはしません。そんないろんなお部屋があるところですけれども、これまず入れる子は入ってもらって、誰かと接点を持てる、そういうファーストステップを期待しているところであります。

次はですね、またちょっと変わりますけれども、大塚製薬さんと昨日包括連携の協定を結びました。

これまではですね、大塚製薬さんとは熱中症対策とか女性の健康支援などの分野では、連携をしていました。取っ掛かりはですね、昨年の９月に私たちが「TEAM としま」という企業がたくさんメンバーになっていただいている、企業と行政との連携を進めたいなという目的で始めた組織（「TEAM としま」）があるんですけれども、そこで私たちの「すずらんスマイルプロジェクト」の若い女性職員がですね、プレゼンをしました。こういう活動をしています。こういうところでぜひ連携をお願いしたいです。というプレゼンをしたときにですね、その後の懇親会で大塚製薬さんからお声がかかって、私たちも女性の健康推進プロジェクトっていうのを持っていて一生懸命やっているんですよと、一緒に何かやりませんかっていうようなお話があって、お見合い成立みたいなものですけれども、そこからの「すずらんスマイルプロジェクト」がですね、真ん中にありますけどいろんなことを独自に進めておりました。

先日は、うちの男性職員を対象にセミナーをやって、生理痛っていうのがいかにきついのかとかですね、こういうときは女の人って本当大変なんだっていう話をしてもらったり、月経前症候群っていうのをチェックできるシートっていうのを大塚製薬さんが作っているので、ただ単に何か自分が具合悪いっていうチェックすると私は PMS なんだ。この症状なんだ。ってのがわかるようなチェックシートをお作りになっているんで、それを「すずらんスマイルプロジェクト」と連携した事業で女の子たちに配布したり、そんなことで連携をしておりました。

先日ですね熱中症対策本部を豊島区でやっているんですけども、そこにも大塚製薬さんに来ていただいて、熱中症の本当の怖さとかですね、そういうものをレクチャーしていただくなど連携を進めております。

昨日ですね、締結をいたしまして、この熱中症対策とか女性の健康推進だけでなく、これからは食育のこととか、スポーツのこととか、あとあれですね、重要だと思ったのは、災害時の備蓄のこととか避難所で具合が悪くなってしまったときの対応の仕方とかですね、災害時における協力など幅広い分野で連携を進めていきたいということで締結をしたところであります。昨日もですね、関係する部署の管理職ずらっと並びまして、締結式に臨んだところであります。

一つですね、熱中症対策のところにアンバサダー講座っていうのがございます。これ大

塚製薬さんが独自にやられているということで、熱中症とは何たるかとか、どんな対策があるんだとか、どういう取り組みが重要だっていうものをですね、動画で勉強して、その後、テストを受けて合格すると、熱中症対策アンバサダーの認定証がもらえるというものを大塚製薬さんやっていますけれども、これを既にですね、私たちの区民ひろば、区内 26 ヶ所ありますけど、そこのあの所長をはじめ全区民ひろばにおいて、合計 60 人ぐらい認定証をいただくことを目指しています。

またケースワーカーですね、生活保護世帯を回ったりしますケースワーカーにも受講してもらいたいと思っていますし、今後は例えば観光案内場でボランティアしてくださる方々とか、お祭りのときにも気をつけてくださいとか、あるいはスポーツ施設ですね、ああいうところの管理をしている方とかにもですね、ぜひこの講座を受けてもらって、いざというときに最初の対応ができる。あるいは来てくださった区民の皆さまに啓発ができる。そうした体制をいろんなとこでできるように、私もね、まだ区長で認定証を持っている人はいないって聞いたんで、早速受けようと思いますけど、全庁挙げて熱中症対策には、大塚製薬さんのお力も借りながら進めてまいりたいと思っています。

また来月の 23 日、またご案内を申し上げたいと思いますけど、立教大学がですね、大規模な防災フェスをやります。豊島区も一緒に連携してやりますけども、そこでも大塚製薬さん区と共にご出店もいただきます。防災の観点からもぜひ連携をしていきたいと思っております。

熱中症の関係でクーリングシェルターの設置についてお伝えをしたいと思います。クーリングシェルター、昨年のもう殺人的な暑さということもありまして、昨年度も豊島区では、「涼みどころ」というのを区民ひろばに設けておりましたけれども、今年は規模を拡大しまして、40 ヶ所の区立施設に、この白くまくんのですね、のぼり旗を掲出いたしまして、特段、区民ひろばを利用しなくても、どうぞ涼んできてくださいというようなことで広く PR をしたいと思っております。

クーリングシェルターっていうのが、今回、国の気候変動適応法の規定で熱中症の特別警戒アラートが発表されたら解放する義務があるという施設で、クーリングシェルターというのが位置づけられましたけれども、うちは別に特別警戒アラートが発動されずとも、いつでもどうぞというクーリングシェルターですね。もういつでもお休みくださいということでやりたいと思っております。

また薬局にもご協力をいただいて、区内は 100 ちょっと薬局がありますけれども、その

うちのまず30ヶ所の薬局でご協力をいただいて、同じように涼みどころ薬局ということで、間口を開いていただくことになりました。

次のページにですね、具体的にございます。区民ひろばの他に区立施設は図書館、男女平等推進センターなど40ヶ所。そしてこちらはですね、もう6月1日から始めます。10月23日まで。

また、去年も置いていましたけれども、冷たいお水をマイボトルで入れていただけるものも全箇所で設置していますので、ぜひ冷たいものを飲みながら、お休みいただければと思っております。

薬局については次のページにございますけれども、区内30ヶ所、こちらは6月10日から9月30日まで。空調の効いた薬局の中で休憩をいただければと思いますし、もし本当に具合が悪かったらその場でご相談もできますので、薬局の皆さまの、本当に薬剤師会のご協力のもとで30の薬局の方々がご協力いただけるというのは、本当にありがたいなと思っております。場所など詳細は追ってホームページで公表をしたいと思います。

次はちょっと変わりますけれども、HPVのワクチン。これはぜひぜひ皆さまにもお知らせを広くしていただきたいというお願いでございます。ご案内の通り小学6年生から高校1年生相当の方にHPVワクチンの無料接種をすすめています。子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐということで、まずは女の子からスタートをしていまして、全額公費による定期接種をやっています。

下に書いてありますけど、キャッチアップ接種ですね。一時の接種勧奨を差し控えていた時期に対象の年齢だった方については、もう年齢としては対象外ですけれども、令和4年度5年度6年度は特別対応ということで、無償で受けられることになっています。

この女の子のやつはですね、2回のものもあれば3回のものも、ワクチンによって違いますけれども、大体自腹で打つと5万から10万かかるという高額なものになります。これを無料で今打てる時期なので、打つのを希望される方は、間に合うように打ってくださいということを私もSNSなどで発信していますけれども、区からも繰り返しご案内をしたいと思っています。

といいますのもですね、報道で見ましたけれども、このキャッチアップ接種は令和4年、5年、6年と3年間がその対象の期間なんですけども、令和4年度の初回接種率が全

国で 6.1%に留まっているという状況だそうです。なので、今年度最終年度になります。2 回か 3 回ですけども、打つ間にですね間隔を取らなきゃ行けない。３回打つ場合ですと、１回目と最後 3 回目がですね、半年間が空くんですね。だから 3 回打ちたいなっていう人は、9 月に打たないと打ち終わらないということですので、ぜひこの期にという方は、間に合うように打ってほしいと思います。予診票はですね、令和 4 年に始まりましたので、4 年の 7 月にすでにお送りをしておりますけれども、改めて今年の 7 月にもう一度まだ打ってない方にお送りします。

キャッチアップ接種がまだの方、そして高校 1 年生相当の方も今年が最後ですので、そのラストチャンスの方については、7 月にもう 1 回勧奨はがきをお送りいたします。その後、受付をしまして、9 月からぜひ希望する方は打ち始めてほしいということになります。

男の子についても、今年度から豊島区は全額無償で接種できるという制度をスタートいたしました。今はですね定期接種じゃなくて任意接種なので、自分で打つとやっぱり 5 万から 6 万かかるというものですけれども、豊島区では同じく 6 年生から高校 1 年生相当の男の子に対しても、全額接種費用を助成いたします。

こちらはですね、申請をしていただくところがスタートになります。申請をしていただいて、お申し込みをいただいて、予診票を受け取って医療機関に接種に行っていただくということになります。

5 月 17 日に対象の男の子に周知のはがきをお送りしました。そして、申請があった方には 5 月 31 日、まもなくですけれども、31 日から予診票のお送りをスタートいたします。なので、補助の制度があるのならばという方は、ぜひもうお手元にご案内のお手紙がいっていますので、まずは窓口に来ていただくか、ご連絡をいただくか、予診票お申し込みをいただければというふうに思っております。

次は 7 月 1 日から外国人専用の相談窓口をスタートするという内容です。どんどん外国籍の方が増えておりまして、今は過去最高の 34,498 人が 5 月 1 日現在の人数になります。こないだまではですね、全人口の 11.3%と申しておりましたけれども、11.73%になりました。

豊島区は23区で2番目にですね、総人口に占める外国人の方の割合が高いので、やはりこれまで以上によりきめ細やかで暮らしやすい、そうした体制をとっていく必要があると思いまして、7月1日に外国人専用の相談窓口を本庁舎の4階に設けることにしております。

具体的にはですね、今は英語と中国語の2カ国語を週に4日、午後だけやっておりましたけれども、7月1日からは最大22言語を月曜日から金曜日、朝から夕方まで毎日設けます。そこで対応させていただくとともに、外国人の方が必要だなと思われるような情報やチラシも、今まではですね、子どものことなら子育て支援課とか、税のことは税務課っていうことで、それぞれの部署で置いていましたが、ここで一括していろんな情報がとれるように集約をしたいと思っております。

令和4年度の状況を聞きましたところ、大体全体のご相談件数の中の14%ぐらいが外国人の方からのご相談なのですが、国民年金を初めとした窓口のサービスこととか、それから出産、子育てに係る手当のこととか、それから、学校に関すること、などのお問い合わせが多かったと聞いております。そうした情報と、あとはゴミの出し方とかですね、そういうのもあると思いますけども、そうした情報、また区内でいろんな外国人の方向けの支援をやっている団体もありますので、そうした団体の情報などを一元的にここの窓口に行ったら、大概の情報あるよというような体制でスタートをしたいと思っております。

次がですね、ぜひ皆さまに周知というか、ご案内したいんですけど、特殊詐欺がですね豊島区だけじゃないと思いますけど、ものすごく増えております。

4月末で1月から4月で、被害件数51件、被害額が1億を超えておりまして、昨年度に比べてですね、同じ時期と比べますと被害金額などは9000万も多いとかですね、被害件数も31件多いとかですね、非常に良くない状況でございます。昨年1年間の被害総額1億4000万でしたけれども、本日の時点ですでに超えたということで聞いております。

主な手口は豊島区役所の職員から連絡が来るというパターンが多くて、還付金のこととかですね、それからご自宅にお伺いをし、伺った人が嘘の手続きでキャッシュカ

ードをすり替えちゃうっていう、この二つが非常に手口としては多いというふうに警察から聞きました。

そんな状況でして、区としても私もSNSでよく発信もしていますけれども、ますますやっぱり被害防止のための注意喚起に力を入れたいと思っております。主な取り組みですけれども、今は青パトがですね、豊島区内をぐるぐる回っているんですけども、青パトを通じて気をつけてくださいっていうのも、これまで以上に一生懸命やりたいと思いますし、あと自動通話録音機を無償で貸し出しもしております。私の義理の母もお借りしておりましたが、まずやっぱり電話に出ないっていうことが一番の防止策だということですので、直接出ないでここでまず録音するということをおすすめしたいと思います。今年度は440台分確保しています。区内在住のおおむね65歳以上の方に無償でお貸し出しをいたします。お住まいを管轄する警察署、巣鴨池袋目白、所轄にですね、お電話いただきますと、そこから通じてお貸し出しできますので遠慮なくご連絡をいただければと思います。

またアナログでも電話に出ないとか、何かあったらすぐに警察、あるいは警察がちょっとハードルが高ければ、遠慮なく区役所にお電話くださいというようなこともいろんなツールを通じて発信をしたいと思います。とにかく電話に出ない、それからお話の中で、お金の話が出たらまず詐欺と疑ってくれという言葉を警察からは聞いております。あと安易に預金の残高は絶対に言わない、そしてさっき申し上げたように、おかしいと思ったら1回切って、区役所あるいは警察に、区役所で全然大丈夫なので、お電話をいただければと思っております。

引き続き区内の3警察署ともしっかり連携して、これ以上被害総額伸びることがないように取り組んでいきたいと思います。

次は定額減税調整給付などについてでございます。これも全国共通なので日程をまず区民の皆さまにお知らせをしたいと思います。こちら定額減税調整給付と、次のページでは新たな非課税世帯等への給付事業についてということで、二つございますけれども、豊島区ではできるだけ早めにかつスムーズに手続きができるように、区民部がものすごい頑張ってくれまして対応しております。区民部の税務課の中に定額減税調整給付グループというのを新設いたしまして、職員の3名体制で、全力で臨んでい

るところであります。

定額減税調整給付ですけれども、こちら対象者は区内では 32,000 人を見込んでおります。これも全国共通ですけど、令和 6 年度個人住民税所得割額が課税されている方、または令和 6 年の所得税が課税される見込みの方で、定額減税において減税しきれなかった相当分を給付ということがございますけれども、こちらの対象 32,000 人に対しまして、6 月 11 日にですね税のデータが確定しますので、そこから一斉に作業スタートします。大急ぎでやりまして 7 月 16 日に申請書を対象者の方にお送りをいたします。そして 8 月の上旬からお振り込みができるようにしたいと思っております。

支給方法はですね、公金口座を登録されている方については申請不要で、そこにお金をお振り込みしますし、それ以外の方は一旦申請してもらうことになります。申請の期限は 10 月 31 日、これも遅れて対象だったのにということがないように私たちもいろんな周知をしっかりやっていきたいと思います。

専用のコールセンターも設けました。とにかく難しい、非常にわかりにくいと思いますので、何か通知が来たけど何だっていうことはもう遠慮なく、専用コールセンターにお尋ねをいただければと思います。

もう一つの新たな非課税世帯等への給付ですけれども、こちら対象世帯に 1 世帯当たり 10 万円、18 歳以下のお子さんがいる世帯へお子さん 1 人当たり 5 万円を給付するというものですけれども、こちらも同様に税のデータが確定し次第、作業に入りまして、こちらは先ほどよりも早めに 7 月 1 日に申請書をお送りします。そして 7 月下旬から順次振り込みを開始し、支給方法は先ほどと同じで、公金口座の登録がない方はご申請が必要になります。

私たちとしては、生活困窮者が多いと想定しまして新たな非課税世帯等への給付を先んじてやることにしました。7 月 1 日にまずこちらからご案内が始まります。

こちらもですね、さっきとは別の電話番号のコールセンターを設けましたので、これも何だろう、私は対象、そうじゃないのっていうようなことも含めて、問い合わせをお受けしております。

そしてですね、本当に難しいので、7 月 1 日に広報としま特集号っていうもので全面的にここの給付あるいは定額減税についてのご案内をします。見ても難しいとは思

いますけども、日頃きっちりした仕事を着実にやっている税務課が、わかりやすいようにっていうことですごく苦労しながらですね、ご案内を作りまして7月1日に全戸配布をいたしますので、まずはそれをご覧くださいということを区民の皆さまにもお知らせをしたいと思っております。

私からの主な新しい事業は以上なんですけど、最後に、区民による事業提案制度を今年もやっていまして、締め切りが近づいておりますのでこれも宣伝をしたいと思います。

締め切りは6月14日で、提案対象者・上限額は昨年同様です。今年は災害に強い地域づくりと、デジタル化という今の私たちが優先して進めたいこと、でも区としては、特にデジタル化は他の自治体に比べて、私は豊島区が遅れていると思っているので、そこを挽回すべくこの二つをテーマに絞って、広く区民の皆さま、団体企業の皆さま、在学の在学在勤の皆さまも含めて、広く募集をしておりますのでどうぞよろしくお願いします。

最後に三つ、イベントのご案内をしたいと思います。

カプコンをご存知でしょうか？有名な日本のゲームメーカーで、対戦格闘ゲームの草分け的存在だそうです。「ストリートファイター」とか、「ロックマン」、「バイオハザード」、「モンスターハンター」など、そういうのがある本当に大人気のゲームメーカーで、そことタイアップをした企画展をトキワ荘でやります。7月20日から11月24日の期間で、「CAPCOM VS.手塚治虫キャラクターズ」っていうのをやります。

最初にゲームメーカーとトキワ荘はどういう関係なのかしらと思ったんですけど、実は昨年宝塚市立手塚治虫記念館で大人気の企画展だったもので、豊島区にやってくるというものになります。こちらの宝塚のときはですね、4ヶ月で約3万人が来場されたという大人気のものであります。これを7月から新しい企画展で始めます。

さらにですね、トキワ荘の近くに昭和レトロ館があるんですが、あまりにも材料が

たくさんありすぎるので、トキワ荘とレトロ館と両方で連携してやりますのでぜひ皆さまもご取材をお願いしたいと思います。この売りはですね、カプコンの格闘ゲームの膨大な歴史がですね、巨大年表がばあっと出る、たくさんの原画とか資料が展示されるということが一つと、もう一つはコラボです。カプコンのクリエイターさんが手塚治虫先生のキャラクターを描くんだそうです。そして、手塚プロのクリエイターがカプコンのキャラクターを描いて、お互いにそれぞれのイラストを描き下ろすコラボイラストっていうのも目玉で楽しみにしております。

二つ目はですね、ダンスです。ダンスで日本初のプロダンスリーグ「D リーグ」っていうのがございます。こちらに参画している、若い子たちでめちゃくちゃ人気だそうなんですけども、「セプテーニ ラプチャーズ」っていうダンスチームがあるんですけども、この「セプテーニ ラプチャーズ」が 7 月 1 日に、豊島区の大塚を拠点にすることを発表いたしました。ホームスタジオが大塚駅からすぐのところですけども、そこが拠点になりまして、そこで練習したりいろんなことをやります。

この大人気のメンバーが 7 月 1 日に拠点スタートっていうことを記念して、6 月の 22 日 23 日に無料で直接レッスンをしてくれるということです。定員はありますけど、リトル未就学児とリトルキッズ、中学生以上の一般というそれぞれの枠で、30 名が無料で直接教えてもらえます。中には本当にですね、世界チャンピオンの称号を持つダンサーもいたりですね、いろんなコンテストとかダンスバトルでも勝ち残ってきた子とかですね、有名だそうですよ。私もこの間の拠点にするぞっていう発表のところに、私も一緒に行きまして、本当に若い方々大人気で、大塚を選んでくれて本当嬉しいなと思っております。こういう方々が豊島区大塚に拠点としてとしてやっていただけるということで楽しみにしております。

既にですね、この間お話しましたけどもせっかく豊島区大塚を拠点にするんで、まちの方たちともっといろいろ連携したいということで、地元の人たちと一緒に、よく大塚ってゴミ拾いしていますけど、この間はメンバーが大塚の駅前をゴミ拾いしたり、こういうところでも今度子どもたちと一緒にイベントをしたりゴミ拾いをしたり、そういう何かコラボができると地元の子どもも大人も喜ぶな、なんていうふうに思っているところであります。

最後はですね、エポック１０って言われる男女平等推進センターがありますけれども、毎年６月にですね、エポック１０フェスタっていうのをやっています。

６月がですね、男女共同参画週間というのがあるのと、このエポック１０自身がオープンしたのも、６月っていうことで、毎年やっています。今年もですね６月７日～9日で、いろんな団体がいろんな事業をやります。お手元にもお配りをしております。

その中のですね、一つのメインイベントっていうことで、私もお恥ずかしながら出ておりますけれども村木厚子さんと対談をするその後に村木さんからご講演をいただくというのを６月７日の夜、やりますので絶賛今申し込み受付中でございます。

村木さんとはすずらんスマイルプロジェクトを通じていろんな連携をさせていただいておりますのでコロナ禍後の女の子たちの生きづらさとか、いろんな環境がどんなふうに変わったとか、これからどういう観点で、私たち行政そして村木さんのような民間の団体どんなことをして、どんな連携をしていくのが望ましいのかなと、忌憚ないやり取りができるといいなと思っております。

またすいません、長くなってしまいましたが私からは以上です。

【質疑応答】

朝日新聞

数点質問をさせてください。まず一点目が、HPV ワクチンの全額助成についてです。男性の任意接種を行うその意義とその財源、それからまた他自治体の実施状況がわかる範囲でよろしくお願いします。

高際区長

任意接種は早く定期接種にしてくれればいいなと思っているのですけども、男性も HPV ワクチンを接種することで、肛門がんとか、尖圭コンジローマなんていうものの予防に効果が期待できるということと、それと東京都の方でも助成の制度を始めまし

たので、そうした東京都の補助金なども活用して豊島区は今年度からやることにしました。他区の状況は、豊島区含めて 15 区です。

朝日新聞

ありがとうございます。次が、外国人が増えている背景についてなんですけども、豊島区が把握する外国人が、インバウンドもあると思うのですけど、23 区 2 位ということで増える背景と、あと外国人との共生について、区長はどのようにお考えでしょうか。

高際区長

増えている背景はいろいろあると思いますけど、やっぱりあれですかね、この小さい区に、八つの大学があるってことで留学生もずいぶん増えているんじゃないかと思いますね。そして、豊島区は若い方たちが、前もお話したかもしれませんけど、グリーン大通りでリビングループをやって、みんなで一緒にやろうよ、なんていう若いエネルギーがいっぱいあるので、楽しそうだなということで、近隣にお住まいだった外国籍の方が、引っ越してこられるっていうのもあろうかと思います。

共生っていう意味ではですね、さっきも申し上げましたけど、やっぱりこれだけ 1 割を超えていらっしゃる、かつ区民ですんでね、もう外国人だからとかって言っている場合じゃないんじゃないかと思って、同じ区民であり同じ仲間として、子育てに大変な方は、きちっと支援に結び付けられるようにとか、学校で何か大変なことがあったら教育委員会と連携してやるとかって当たり前だと思うんですよ。だから多文化共生っていう意味ではそうかもしれないけど、同じ区民として暮らしやすい環境を整えていくっていうのがやっぱり行政として、しっかりやっていく必要があるかなと思っています。

その第一歩としては、困ったときに来てくださいっていう窓口をやっぱり、このことだからこっちこのことだからこっちではなくて、まずはワンストップで受けられる窓口を設ける必要があるなと思っています。これも区民による事業提案制度を元にやっているんですけど、もちろんですね、そこの窓口だけですね全部対応できないと思

います。相談を受けて、それでいかにこの連携先を持って、これについては民間支援団体にこういうふうにお繋ぎする、あるいはその税務課に行くときに、あっちですよじゃなくて、もしかしたらですね、職員がお連れすることもあるのかもしれませんけれども、できるだけ丁寧に対応していきたいと思っています。

朝日新聞

ありがとうございました。次がですね、定額減税調整給付の部分と、あと非課税世帯等への給付なんですけど、定額減税調整給付の方は多分国の枠組みかなというふうに思ったんですけど、非課税世帯等への給付についてこれ豊島区独自になるんでしょうか。

税務課長

どちらも今回は国の枠組みの中で給付するものになります。

朝日新聞

ありがとうございます。次なんですけども、昨日 52 の市区町村の自治体の長がですね、小池都知事に出馬要請をしてですね、豊島区長もその中に名を連ねていました。小池都知事は以前高際区長も一緒に働いた経験もありますし、区長選の際は応援に来てらっしゃったかなというふうに思うんですけども、小池都知事とこの都知事選についての何かやり取りがあれば教えていただければなと思うのと、あと今、都の政策で区として評価している点と、何かこれ改善できないかなという点があれば 1 つずつでも良いので教えていただきたいです。

高際区長

知事選については、お話はありません。

それと子育て支援にアクセル踏んでくれているっていうのはすごく私たちと歩調も

合っていて、嬉しいなと思います。さっきの子育て支援の範囲からちょっとずれるかもしれないですが、さっき言った男の子の HPV ワクチンなんかもね、必要だなと思ってもやっぱり全額が自分でやるかっていうと、ちょっとどうしようかって思うところもやっぱり東京都が出してくれるっていうところでそこに区の一般財源を加えてやろうかっていうような決断にもなりますし、ちょっと戻ります、子育て支援なんかは特にいろんなメニューを出してくれているというところで非常にありがたいと思っています。

今後のこれはって思うのはですね、打ち出していただいたその子育て支援策を途中で止めないで継続してほしいなと思います。よくあるのはですね、私も東京都にいたんだであれなんですけど、最初はやるんだけどだんだん補助率が下がったりですね、あとはご自身でって言われちゃうと、直接区民を目の前にしている区市町村としては、始めたものを一気にやめますっていうのがなかなかできなくて、結果的に全部区のお金でっていう事がなかなか厳しいので、始めていただいた良い支援策っていうのは、継続してやっていただきたいなというのを強く思っています。

朝日新聞

その意味でいうと何か具体例とかってありますか。支援率が下がっていたりとかっていうので、これ復活してほしいなっていう政策とかありますか。

高際区長

そうですね、これまでのではいろいろあるのかもしれませんけど、私が副区長、区長になってからはもう本当にアクセル踏まれて新しいものをどんどんどんどんやられていて、まだですね、ないです。ただ、3 か年っていうのがあるんですよね、3 か年 10 分の 10 っていうのは、この先どうなのかなっていうのは大いに期待しているところではあります。

朝日新聞

ありがとうございます。最後なんですけども、ヨドバシカメラがですね、6月21日に美容専門店を開くというふうに発表したところなんですけども西武池袋百貨店の問題はですねこれまでも区としても地域の人たちと一緒に考えていきたいみたいな発言を区長はされていました。これについて美容専門店を開くことについての受け止めと、事前にヨドバシがもしくはアメリカの投資会社の方からなどからフロアの打診について事前に区に何か連絡などはあったんでしょうか。

高際区長

西武さんについてはですね、3月の半ばだと思うんですけど、これから大体いつ頃こんなスケジュールでやっていこうと思いますっていったお話を田口社長とヨドバシホールディングスの安藤取締役がお越しになって、本当ザクッとした感じですかね、お話を伺いました。

具体的なプランがもう少し固まりましたらお話にっていうことですけども、今現在まだ伺ってないんですけども昨日ちょっとちょうど夜、ある団体の懇親会で、そごう・西武の方とお会いしたんですけども、近々プランについてご説明の場を設けたいと思いますってことは昨日ちょうど夜言われました。

朝日新聞

それまではなかったという理解でよいでしょうか。

高際区長

3月の半ば以降はまだお会いしていません。

朝日新聞

美容専門店については発表があったばかりなんですけど、それについての区長の受け止めは。

高際区長

まだ私も詳しくはわからないのでまだ何ともコメントはしづらいなという感じです。

新宿区新聞

今日区長の方からご説明があった部分でもいろいろ多々興味を持っている部分があるんですけども、今の質問の流れで西武池袋の関係でですね、以前、定期的にというか、地元の方交えてヨドバシホールディングスですとか、その親会社の投資会社ですね、情報交換、意見交換されていたようなんですけども、今もそういった場合は定期的に持たれているのかっていう部分と、あと全体的なその階層イメージどうなっていくのかっていう辺りもその話の中で伺っているのか、見えてきたのかどうか、特に当初気になされていた高野区長の時代ですかね、1 階の顔の部分が、ということでしたけども、その部分が今の形というか、維持されるのか、1 階は家電量販店は入らないっていうような受け止めなのかどうか、ちょっと伺いたい。

高際区長

はい、申し上げたように、3 月の半ばにお 2 人がいらっしゃって、お話を聞いてからまだ 2 ヶ月ぐらいですので、また、昨日そんなお話を昨日夜伺いましたので、次にご説明のときは、ある程度のこういうプランがご説明いただけるのかなというふうに今お待ちしているところであります。

まちの経済 6 団体をはじめ、以前私と一緒に先方と意見交換したみなさまとは、状況については逐一私の方から共有をしております。それともう一つはですね、サンシャインシティの合場社長をトップにして池袋エリアプラットフォームというのがあって、池袋でいろいろ活動されている企業が入っているところがあるんですけれども、そこで昨日も発表ありましたけど、池袋未来ビジョンっていうのができました。今後その池袋エリアプラットフォームの中で、その未来ビジョンをベースにどんなことを具体的にやっていくかっていうのをいろいろ話し合われていくんですけど、そこにですね、メンバーになってくださいっていうお話はされていまして、安藤取締役、実は ISP の社長になっているんですけど、ISP さんはその池袋エリアプラットフォームに

はメンバーとして入っていて、今後のまち作りの中のいろんな話し合いの中には入ってくださっている、ヨドバシさんはですね、最初はまだお入りになってなかったんですけど、ヨドバシさんとしてもぜひそのみんなでまち作りを地元で考えていく、その池袋エリアプラットフォームにメンバーに入ってくださいっていうことをですね、お話は再三していて、入っていただける方向だというようなことは聞きました。なので、私たちも直接ご報告ってのもあるんですけども、具体的なまち作りの中でっていうことで多分池袋エリアプラットフォームといろんな東口西口関係する企業さんが入っているそこの場で、メンバーとなっていただいて、いろんな意見交換がされていくのかなというふうな捉え方をしております。

新宿区新聞

ありがとうございます。

日本経済新聞

　都知事選の関連なんですけど、先ほど少しお話出ていた、昨日の要望について名を連ねられたというのは、そういった子育て支援策とかそういうのを支持されているか、という理解でよろしいんでしょうか。

高際区長

　もちろんそうです。やっぱり区政運営する中で東京都側と議論するときは議論し、連携するときは連携し進めていますので、子育て支援もそうですし、不登校の対策だとか、産業振興とか、また豊島区だと特に文化とか、また今再開発進んでいますけども、まちづくりのこととか、いろんな面で緊密に連携し、これまでも進めてきておりますので、そうしたところでは非常にこれからも、ぜひ連携しながら、申し上げたように、議論すべきところは議論しながら進めていけるかなと思っています。

　それでやっぱり地方自治体の課題とか現場の問題にしっかり目を向けていただいて取り組んできた実績とか、そういう区市町村の取り組みに理解がある方に私は知事に

なってもらいたいなと思っていますので、そういう観点から豊島区というか私としては、要請文に名前を出したというところであります。

日本経済新聞

　今後、選挙戦始まりますけど区長として、実際何か応援するとかそういったご予定っていうのはありますか。

高際区長

　ご要請があれば、応援にもちろん入りたいと思っています。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

（テキスト版文責　政策経営部広報課）